

PIAGET

時を超えて美を形作る

This watch, like you and me,
Has no end and no beginning,
Yet it has significance,
For it reminds us there is now,
And it promises tomorrow
For the woman who is worth the most
expensive watch in the world.

PIAGET
21ST CENTURY COLLECTION



ピアジェは、60年にわたる革新的なデザインの歴史を讃え、大胆さとエレガンスによって時を芸術へと昇華させるメゾンの伝統を受け継ぐ、卓越した新作を発表します。

時間が形を作り、形が時間を作る。ピアジェにとって、この相互作用は、1874年にスイス、ジュラ山脈のラ・コート・オ・フェにある家族経営の農場で始まった、超薄型時計製造への情熱から生まれたレガシーです。2024年に創業150周年を迎えたメゾンは、創業者ジョルジュ＝エドワール・ピアジェが掲げた「常に必要以上に良いものをつくる」というモットーを忠実に守り続けています。このモットーは、ウォッチ製造における精密さを芸術的な表現へと変革させました。ピアジェの歩みは、機械的な技術を習得することから始まりましたが、メゾンの大胆な芸術性がピアジェを他のブランドと一線を画しています。ギアの精緻な調整からケースの大胆な幾何学的デザイン、正確な時間の測定からジュエリーの流れるような詩的な美しさまで、ピアジェは単なるウォッチではなく、世代を超えて語りかける視覚的な言語を生み出しました。

PIAGET





そして2025年、ピアジェは伝統と革新の絶え間ない対話を具現化した、新しいマスターピースを発表します。1960年代後半の自由な精神を表現した印象的なスウィング ソートワールやカフウォッチ、ホワイトゴールドに生まれ変わった Piaget Polo 79、1960年代から続くピアジェのジュエリー技術とジュエリー技術を誇る Rainbow Auraなどのビジュアルシグネチャーは、ただ時間を示すのではなく、ピアジェの物語を伝えています。どの作品も、時間の測定を芸術に変えるピアジェ独自の能力を証明するもので、ウォッチは機能の枠を超えた永遠の芸術作品となります。

PIAGET

1969年 クリエイティブな ルネッサンスの 始まり

1969年はピアジェの歴史において重要な節目となり、メゾンのアイデンティティを再構築する創造的なルネッサンスの幕開けとなりました。ピアジェは、1957年の9Pムーブメントや1960年の12Pにより超薄型時計の分野で確固たる地位を築いていましたが、メゾンはスイスウォッチ製造の枠を超えた挑戦をしようとしていました。スイスのウォッチメーカーとしては前例のない試みとして、ピアジェは1960年代にデザイナーたちをパリのクチュールショーに送り込み、ファッションの世界に触れる機会を提供しました。インスピレーションを得てスイスに戻ったデザイナーたちは、それを革新的なデザインへと昇華させ、光沢のある雑誌のページに登場するモデルたちに直接ウォッチをスケッチしました。彼らのビジョンは、伝統的な腕時計の枠を超えるもので、時間をスタイルの一部として捉え、ネックレスやカフスとして身に着けられるように再構築しました。

PIAGET





この創造的解放は、「21st Century」コレクションという革新的なコレクションで頂点を迎え、メゾンは技術の卓越性が芸術性を引き出し、ジュエリーとウォッチの関係性を一変させる新しいアプローチを示しました。ピアジェはスイスのマニュファクチュールにおける長い歴史の制約に縛られることなく、1960年代を象徴するアーティストやデザイナーたちのように、時代の活気あるエネルギーを若々しい精神で迎えました。このコレクションは、スイスウォッチ製造の伝統に敬意を払いつつも、従来の伝統に挑戦する大胆な感性を取り入れることで、深み、形、色彩の斬新な調和をもたらしました。アシンメトリーなトラペーズ型はピアジェのシグネチャーとなり、長いスウィングソートワールに吊り下げられ、または精緻に作られたカフスに組み込まれ、オーナメンタル ストーンの文字盤がその鮮やかさを一層際立たせました。スウィングソートワールとカフウォッチは、「21st Century」コレクションの最も象徴的な作品となりました。先見の明を持つデザイナー、ジャン・クロード・ゲイトによる指揮の下、これらのウォッチは単なるウォッチを超えた存在となり、時代を象徴するダイナミズムと自由な表現を体現する存在となりました。

2025年、ピアジェはスウィングソートワールと「Hidden Treasures」コレクションを拡大し、「21st Century」コレクションのスピリットを受け継いだ個性的な新作を展開します。メゾンのアイコン的な手編みチェーンにセットされたスウィングソートワールには、色鮮やかなのストーン（ルビー、ターコイズ、タイガーズアイなど）の数々があしらわれました。また、ピアジェはカフウォッチの伝統を継承した、オパールの文字盤の一部を密やかに隠すような大胆なデザインの新作カフを発表しました。アシンメトリーなホワイトゴールド製ケースのテクスチャーは自然からインスピレーションを得たもので、波打つような模様は、風や水によって優しく彫刻されたかのようなようです。二つ目は、ピンクゴールドのスネークパターンにグリーンのエナメル文字盤をあしらったモデルです。スウィングソートワールのゴールドチェーンと同様に、「Hidden Treasures」もピアジェの熟練した金細工職人の手によって精巧に作り上げられ、代々受け継がれるメゾンの伝統が息づいています。「21st Century」コレクションは単なるタイムピースにとどまらない、メカニカルな卓越性を芸術的表現に昇華させるという哲学を体現するコレクションでした。どれも個性を讃え、ウォッチという機能を個々のスタイルへの表現へと変貌させました。ウォッチが芸術となったこの革新的なアプローチは、今もピアジェの象徴であり続けています。

PIAGET

PIAGET



water-resistant

PIAGET in gold only

1979年 PIAGET POLO すべてを変えた名前

1979年のPiaget Poloのデビューは、メゾンの歴史において重要な節目となりました。これ以前のピアジェの作品は、独自のスタイルによって明確に識別されていたため、名前で区別する必要はありませんでした。しかし、Piaget Poloはそれ以前の作品とは一線を画していました。大胆でアイコンックなデザインが独自の存在感を示し、ピアジェで初めてモデル名が付けられたウォッチとなりました。貴金属のみで作られたPiaget Poloは、同時代の他のモデルとは異なる存在感を放っていました。特徴的なゴドロン装飾（ポリッシュ仕上げとサテン仕上げを交互に施したライン）がケースからブレスレットまでシームレスに流れるデザインは瞬く間に認識されるようになりました。イエローゴールドモデルが最も広く知られていますが、ホワイトゴールドモデルも製作されており、現在ではそれを見つけることは難しくなっています。これは単にブレスレットを備えたウォッチではなく、視覚的に完璧な調和を成す独特のフォルムを持つ、完全に一体化されたウォッチブレスレットでした。

PIAGET

Piaget Poloはまた、従来の性別の枠を超えた、あらゆる人々に向けた洗練されたスポーツラグジュアリーの究極の表現となりました。その特徴的なシルエットは、やがてスター、社交界の著名人、アスリートたちの手元を彩るようになりました。そして、名声を求めめるためではなく、デザインの美しさから、芸術性を理解する人々に選ばれる存在となりました。

2024年、ピアジェはPiaget Poloのレガシーを讃える、イエローゴールド製のPiaget Polo 79を発表しました。そして今日、メゾンはこのタイムレスなデザインに現代的な輝きをもたらす、ホワイトゴールド製の希少かつ貴重なモデルを発表します。この新しい解釈は、Piaget Poloのエレガンスを保ちつつ、芸術性を現代の嗜好に合わせて進化させるピアジェの揺るぎない能力を示すもので、スポーツウォッチに大型サイズを取り入れました。



PIAGET

1989年 芸術性の AURA

ピアジェは、形状とフォルム、ケースとブレスレット、ジュエリーとウォッチ製造の融合の限界を押し広げてきました。1989年に発表されたAuraは、この調和の極みを象徴しています。Piaget Poloコレクションで初めて発表されたAuraは、ケースとブレスレットのシームレスな融合を新たな高みへと昇華させました。ほぼ全体にジュエルセッティングが施され、ダイヤモンドが見えないほど丹念に配置された「オーラ」は、その名にふさわしい輝きを放ちます。ピアジェはAuraに機械式ムーブメントを搭載し、ウォッチ製造とデザインにおける革新を融合させる高度な技術力を実証しました。その結果、予想を遥かに上回るタイムピースが誕生しました。ケースとブレスレットのシームレスな融合は、触れると消えるようでありながら、目を見張るほどの輝きを放ちます。Auraはまさにピアジェの最高峰と言える作品でした。2025年、ピアジェはメゾンの特徴である卓越した色彩感覚を表現したRainbow Auraを発表します。精密に調整されたジュエルストーンのスペクトルが特徴的なこの見事な作品は、手首に浮かび上がるようなシームレスな色のグラデーションを生み出すために、慎重に選ばれたジュエルストーンが配置されています。Rainbow Auraは、機械式計時を光り輝く芸術的なキャンバスに変え、そこではすべての宝石が光とともに創造的なインスピレーションを映し出します。

PIAGET

ピアジェはその長い歴史の中で、時間の解釈を見事に変革し、形状とフォルムの芸術を極めてきました。それは、真の革新には卓越した技術というキャンバスが必要であるという深い理解から生まれたものです。ピアジェは、時を刻むことを芸術に変えることで、単に時を刻むだけでなく、世代を超えたレガシーが革新を生み、永続的な美の瞬間を生み出します。



PIAGET

ピアジェについて

ピアジェの独特の魅力はその大胆なスタイルにあります。1874年の創業以来受け継がれるクリエイティビティー溢れるスタイルは、華やかな時計やジュエリーに体现されています。大胆な創造性に対する情熱は、スイスのジュラ山脈にあるラ・コート・オ・フェで生まれました。メゾンの創立者であるジョルジュ=エドワール・ピアジェが、その村にある家族の農場の中に最初の工房を設け、高性能ムーブメントの制作をはじめたのは1874年のことでした。このときから時計職人としてのピアジェの名は広く知られるようになります。パイオニア精神を大切にするピアジェは、1950年代後半に薄型ムーブメントの設計・製造に乗り出しました。メゾンを代表する「アルティプラノ」の礎石となるそのムーブメントはピアジェの代名詞のひとつになり、時計製造の世界に確かな足跡を残しました。同時に、ピアジェは常に創造性と芸術的な価値に重きをおき、ゴールドと色とりどりのカラーの融合、新しいシェイプ、高価な宝石、オーナメンタルストーンの文字盤といったスタイルを受け継いできました。卓越したクラフツマンシップのもと、メゾンは「アルティプラノ」、「ピアジェ ポロ」、「ライムライト ガラ」、「ポセション」、「ピアジェ サンライト」「ピアジェ ローズ」、「エクストリームリー ピアジェ」などの素晴らしいクリエイションを創り続けています。

PIAGET

WWW.PIAGET.COM

WWW.FACEBOOK.COM/PIAGET

WWW.INSTAGRAM.COM/PIAGET/

WWW.PINTEREST.COM/PIAGET/

WWW.YOUTUBE.COM/PIAGET

WWW.LINKEDIN.COM/COMPANY/PIAGET

WEIBO.COM/PIAGET

#PIAGET150

#MAISONOFEXTRALEGANZA

#HOUSEOFGOLD

#PIAGETSOCIETY

P

